

クロス円、外貨高が鈍化も下値切り上がり

海外利上げ、相場安定と金利差の重み、国際分散等が下支え

2026/6/8 (月)

為替相場でのクロス円（円の対非ドル通貨）取引は、外貨の上昇ペースは鈍化しつつも、下値の切り上がりと安定化が見られている。目先は日銀の利上げ強化の思惑等が円安・外貨高を抑制する一方、海外でも利上げ方向の中銀が広がりつつあり、その中での為替安定化は「基本的な金利差面での海外優位」に重みを与える形で外貨をサポートしていく。現在は世界的に地政学リスクや政治・財政状況、資源・物資の調達などで不透明感が高まるなか、日本国内での複合リスクを含めて、金融取引や保有資産等で「国際分散化」が重要になっている。

世界や国内に複合問題、国際分散化が重要に

「日本政府が今夏まとめる成長戦略で、官民による『対外直接投資』を促進する方針を打ち出すことが明らかになった」、「高市政権が掲げる危機管理・成長投資を通じた戦略 17 分野の供給力強化の成果を海外へ展開し、国内外経済の好循環の実現と経済安全保障の強化を目指す」――。

時事通信は6月4日、このように伝えている。対外直接投資については近年、構造円安の深刻化もあって「国内投資を優先すべき」、「国内への還元が不十分」といった批判がなされてきた。それでも「経済産業省によると、日本の投資相手国・地域への輸出は拡大する方向にあり、還元の水準も欧米並み」（同）という。

同プランでは「技術優位性を築いた物品やサービスの輸出を拡大させる」、「海外需要を取り込み、国内への再投資を通じて産業基盤を強化させる」（同）といった目標が示されている。為替相場への影響でいえば、中長期スパンで円安抑制や円高の要因となるものだ。一方で「官民による対外直接投資の拡大」や「海外での事業展開強化」については、改めて国内から海外への投資や資本流出、国内への資金回帰よりも海外での再投資増加の要因となり、円安・外貨高の流れを後押しさせる。

その中で足元の為替相場ではクロス円（円の対非ドル通貨）取引で、外貨の上昇ペースは鈍化しつつも、下値の切り上がりと安定化が見られている。目先は日銀の利上げ強化の思惑等が円安・外貨高を抑制する一方、海外でも利上げ方向の中銀が広がりつつあり、その中での為替相場の安定化は「基本的な金利差面での海外優位」に重みを与える形で外貨をサポートしていく。

しかも現在は世界的に地政学リスクや政治・財政状況、資源・物資の調達などで不透明感が高まっている。日本国内での複合問題を含めて、金融取引や

保有資産等で「国際分散化」が重要になってきた。今後は日本の政府自体が、改めて「官民による対外直接投資」を促進させる国策方針となっている。

クロス円での月間ベースでの外貨の高値メドや安値メドについて、参考になるのが前月の月末値からの変化幅だ（以下、ブルームバーグの為替レートを参考）。

個別通貨でいえば早期の利上げが焦点になっているNZドルについては、NZドル/円で5月から上下動を経ながらも下値を切り上げている。最近の月間NZドル高値は前月の月末値からの変化幅が、5月が+3.2円、4月が+3.3円、3月が+0.6円となっている。それに対して月間安値は前月の月末値からの変化幅が、5月に-0.5円、4月に-0.6円、3月に-2.9円であり、下値が切り上がっている。

直近は前月5月の月末値が95.35円となっていた。足元の6月は月間高値メドが前月の月末値から+2円で97.35円、+3円で98.35円、安値は-0.5円として94.85円、-1円として94.35円という計算になる。

月間の高値と安値、前月末値比の変化幅が参考に

クロス円全般について、目先の月間高値と月間安値の参考メドになる前月の月末値比での変化幅は、最近の例が以下のようにになっている。

<ユーロ/円=前月の5月末値は185.82円>

最近の「月間高値-前月末値」変化幅=5月が+2.4円、4月が+4.5円、3月が+0.3円、2月が+3.0円、1月が+2.8円（参考例；5月末値の185.82円から+2円では187.82円）。

最近の「月間安値-前月末値」変化幅=5月が-1.6円、4月が-1.1円、3月が-2.5円、2月が-2.6円、1月が-2.3円（参考例；5月末値の185.82円から-2.5円では183.32円）。

<ポンド/円=前月の5月末値は214.40円>

最近の「月間高値-前月末値」変化幅=5月が+2.1円、4月が+6.5円、3月が+3.3円、2月が+3.3円、1月が+3.9円。

最近の「月間安値-前月末値」変化幅=5月が-1.8円、4月が-0.6円、3月が-0.9円、2月が-4.5円、1月が-1.3円。

<スイス・フラン/円=前月5月末値は203.75円>

最近の「月間高値-前月末値」変化幅=5月が+4.1円、4月が+6.0円、3月が+1.0円、2月が+3.8円、1月が+3.7円。

最近の「月間安値-前月末値」変化幅=5月が-1.1円、4月が-0.2円、3月が-5.2円、2月が-2.4

円、1月が-1.6円。

<カナダ・ドル/円=前月の5月末値は115.37円>

最近の「月間高値-前月末値」変化幅=5月が+1.0円、4月が+3.4円、3月が+2.7円、2月が+1.6円、1月が+1.1円。

最近の「月間安値-前月末値」変化幅=5月が-0.9円、4月が-0.2円、3月が-0.7円、2月が-1.9円、1月が-2.6円

<豪ドル/円=前月の5月末値は114.45円>

最近の「月間高値-前月末値」変化幅=5月が+2.3円、4月が+5.3円、3月が+2.9円、2月が+3.8円、1月が+4.4円。

最近の「月間安値-前月末値」変化幅=5月が-0.5円、4月が-0.1円、3月が-2.3円、2月が-0.8円、1月が-0.1円。

<NZ ドル/円=前月の5月末値は95.35円>

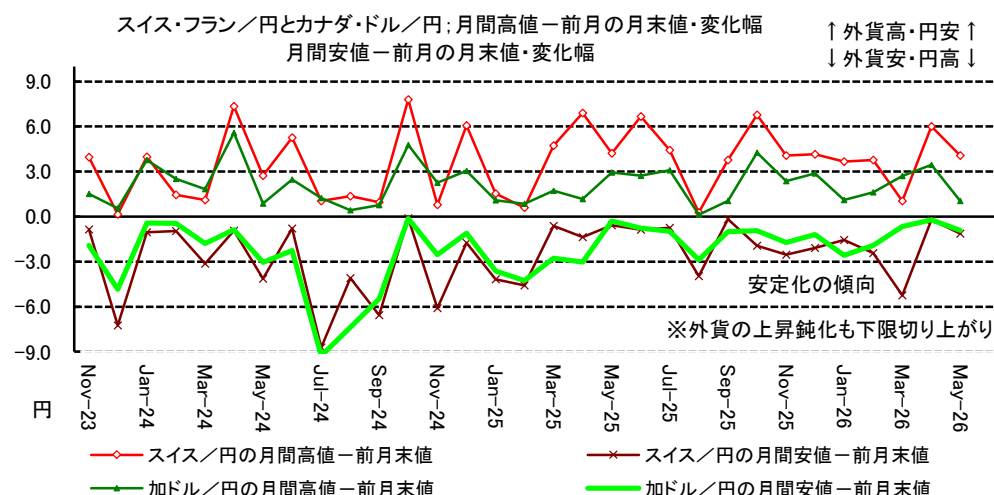
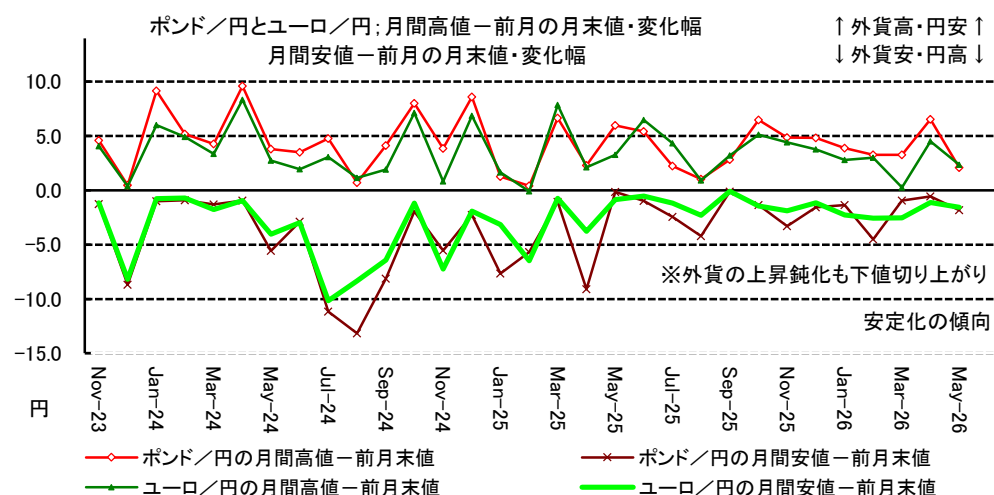
最近の「月間高値-前月末値」変化幅=5月が+3.2円、4月が+3.3円、3月が+0.6円、2月が+1.8

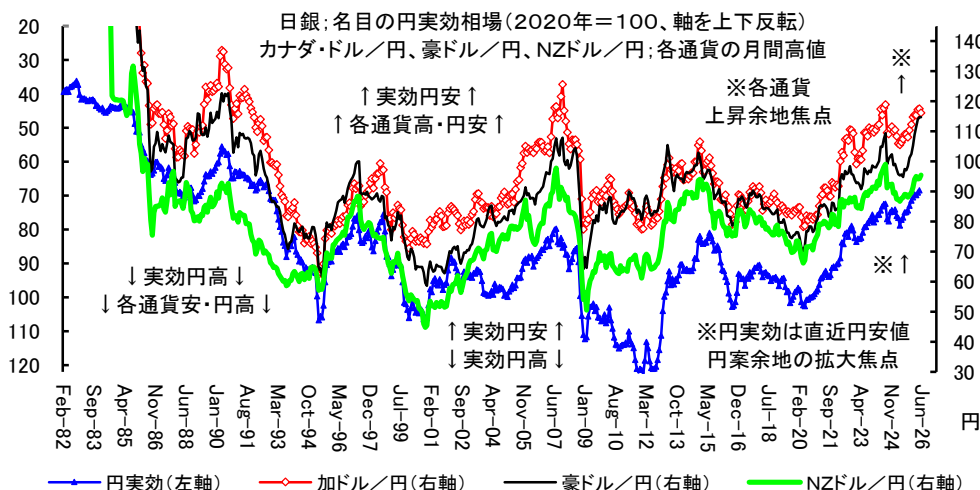
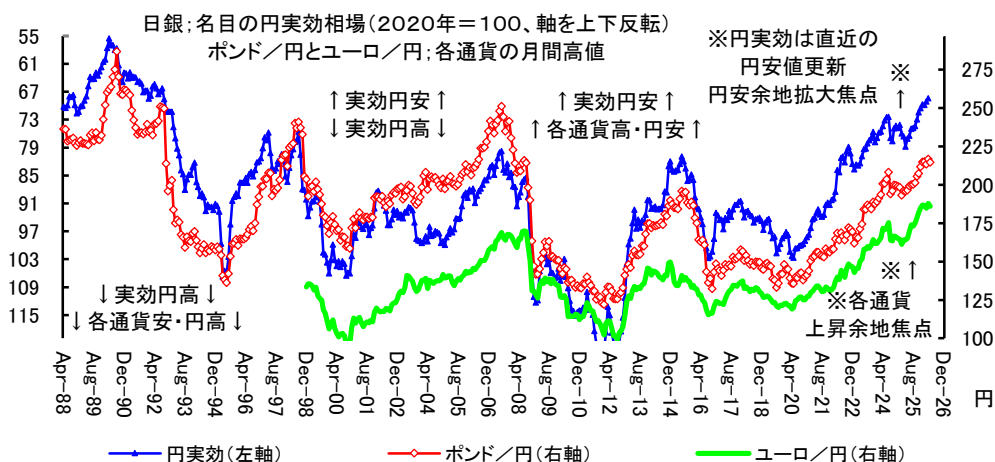
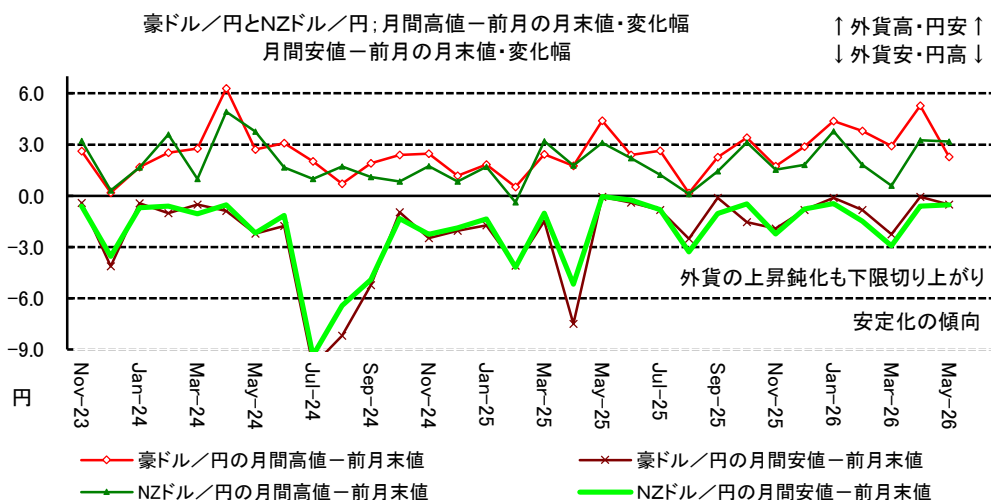
円、1月が+3.8円。

最近の「月間安値-前月末値」変化幅=5月が-0.5円、4月が-0.6円、3月が-2.9円、2月が-1.5円、1月が-0.4円。

クロス円やドル/円を含めて、円全般の総合力を示す日銀の名目・円実効相場（2020年=100、月中平均）については、今年4月時点で68.46となった。3月の69.06や直近最高である昨年4月の78.83などから下落の円安方向となり、1992年8月以来、約33年半ぶりの円安値を更新している（数字が小さいほど円安）。

直近の安値ラインを下回ってきたことで、一段の円の下落余地の広がり注目されそう（ドルなどの外貨は対円での上昇余地）。連動の形で直接的な介入影響の限られるクロス円については、調整局面を経ながらの一段の外貨高と円安の余地が焦点になる。





お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。